

## 1. 概要

～2012年9月3日から翌1月27日まで、上海交通大学客員研究員として研究・調査を行う。

### (1) 上海交通大学

～清末の南洋公学にルーツ。理工系の名門大学。法学研究科は歴史が浅いが、成長が著しい。

(北京に比しての上海のメリット＝政治性が低く、研究・調査の幅が広がる。地理感があることも)

### (2) 研究・調査内容

～「信訪」(陳情・行政苦情)における問題処理を中心とした行政紛争処理と行政管理体制

(方法＝資料収集及び研究者・行政各種機関・担当者への聞き取り、現状の視察など)

## 2. 研究・調査

### (1) 受入れ側の準備・対応

①事前の連絡と準備 (渡航前にしばしば先方を訪れるとともに、受入れ先の教授と密に連絡)

②研究への参加と協力

→研究会、セミナー、学会などの情報提供と各種機関との連絡及び研究協力、日常的交流・議論。

### (2) 具体的な活動と成果

①各地の大学・学会での研究・報告

＝9月北京大学・清華大学、10月福州大学(環境法学会)、11月南開大学(判例研究)・華東政法大學…

②行政機関での聞き取り・講演

＝10月上海第二中級人民法院、12月上海市街道弁事処、1月同行政法制研究中心(講演)

③その他調査・聞き取り

＝各地の研究者・弁護士・裁判官・公務員・議員、新聞記者、外交官(公使、参事官等)、NGO等

④成果物

＝上記各報告及び論文(上海交通大学「交通法学」(既刊)、湖南大学法学院紀要(予定))

## 3. 研究を終えた所感

### (1) 機会の貴重さ

①問題自体の存在意義(反日＝交流の重要性、環境＝法・制度改革の原動力)

②問題を共有している、という意識の重要性

→行政紛争・問題、日常の苦情・陳情、環境問題…いずれも共通のもの

### (2) 交流の発展

①外国人研究者との出会いとその発展(Andrea Oratorni、Matthias Vanhullebusch)

②現地研究者を日本に招待(張千帆教授、張礼洪教授、今後発展の可能性も)

③研究枠組みの構築と発展(学振の国際共同研究・セミナーに、受入教員とのプログラムを応募)

### (3) 今後続く財産として

～研究・交流の形と思考法、ネットワーク、日中間の需給と自分の存在意義…

## 4. 反省と希望

①変化と対応の難しさ

～非常事態…当初予定していた報告・講演や共同研究、調査等軒並み断られる

→予測の精度を高めるとともに、為し得ることを段階化し、予期せぬ事態にも対応することが必要

②現実の変化

～アジア地域、とりわけ中国の発展と物価上昇（一部物価は東京より高い？）

→生活費等の算定基準が少し変更されればありがたい、と思う人は多いのでは…